

市長記者会見記録

日時：2021年6月15日（火）14時00分～14時36分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：（話題提供）川崎市水道事業が100周年を迎えます（上下水道局）
市政一般

<内容>

《川崎市水道事業が100周年を迎えます》

【司会】 ただいまから定例市長記者会見を始めます。

本日は、初めに話題提供として、川崎市水道事業が100周年を迎えますについて、福田市長から御説明いたします。市長、よろしく願いいたします。

【市長】 はい。よろしく願いいたします。

それでは、川崎市水道100周年の記念事業について御説明いたしますので、お手元に配付しております資料を御覧になっていただければと思います。

川崎市の水道事業は、大正10年7月1日に給水を開始しまして、数次の拡張事業や再構築事業などを経て、今年100周年を迎えます。

これを記念して、これまで先人たちが築き上げてきた川崎の水道の歴史を振り返るとともに、水道事業の更なる充実を図り、未来へつないでいくため、川崎市水道100周年の記念事業を実施いたします。コロナ禍ではございますが、100年に1度の節目でございますので、適切な対策を講じた上で実施できるよう準備を進めているところでございます。

主な内容ですが、初めに、7月16日にカルッツかわさきにおきまして、「水道100周年記念式典」を開催いたします。水道100周年記念映像の上映や学識経験者による記念講演などを予定しております。

9月には、水道100周年フェア「かわさき水祭り」の実施を予定しております。川崎フロンターレのホームゲームが行われる日に、ゲーム前のフロンターレ主催のイベントとコラボした形で実施をいたします。

なお、川崎フロンターレは、川崎市水道100周年記念デザインのユニフォームを「かわさき水祭り」当日の試合を含む3試合で着用する予定でございます。

また、水道100周年の記念の「水源地ツアー」や「水とかがやく未来館の見学会」なども予定しているところでございます。

10月からは、水道100周年を記念した企画展「給水開始100年 近代川崎を切り拓いた水道」を市民ミュージアム主催で、大山街道ふるさと館におきまして約2か月間開催いたします。

次に、水道100周年のPRですが、令和2年度に実施いたしました水道週間・小中学生作品コンクールの入賞作品を100周年記念グッズのデザインに活用するほか、記念キャッチコピー「かわさき水道 輝く未来へ100周年」とロゴマークを活用し、実施してまいります。また、市バス4台を用いて、水道キャラクターのウォータンをデザインしたラッピングバスによりPRしてまいります。

このほかにも、水道事業の創設から今日までを史実として記録する「水道100年史」の編さん及び映像として残す「記念映像」の制作も行います。

水道100周年に当たりまして、できる限り多くの市民の皆様にご覧いただくことを知っていただきたいと思います。また、この機会に水道事業への関心を更に深めていただき、一緒に100周年を盛り上げていただくことで、川崎の水道が未来へつながっていくものと考えております。

記念式典や各イベント等の実施時期及び内容については、上下水道局ウェブサイトや広報紙「かわさきの上下水道」などによりお知らせしてまいります。

私から以上でございます。

《 市政一般 》

【司会】 ありがとうございます。

それでは、ただいま御説明いたしました話題提供の件と市政一般に関する質疑に入らせていただきます。

進行につきましては、幹事社様、よろしく願いをいたします。

《 川崎市水道事業が100周年を迎えます 》

【読売（幹事社）】 読売です。よろしくお願いします。

まず、今、御発表の件でお問合せします。

「水道100年史」の編さんというのが入ってございますが、これはどんな方々が、どういう体制で、あるいはもう編さん作業というのは既に始まっているのでしょうか。

【上下水道局】 上下水道局です。100年史の編さんにつきましては、業務委託によりまして、既に開始しているところでございます。

以上です。

【市長】 よろしゅうございますか。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。

それから、水道事業の一般的なこととしてお伺いしますが、地方の特性とか自治体規模とかでいろいろ違うと思うんですけれども、全般的に、やはり水道事業、自治体は、老朽化とか、それからこちらでいうと、恐らく鉛の管の取替えとか、いろんな課題がなおあると思うんですけれども、当面の懸案といいますか、あるいは長期的な課題、市長さん、どんなことを今お考えでしょうか。

【市長】 そうですね。まず、一般的にというか、川崎市は水道の再編というか、ダウンサイジングというものを、うまく効率的に、この間、ずっと進めてきました。そういった意味では、全国の事業者の中でも、かなり進んでいるほうだと思いますが、一方で、県内の事業者ですね、川崎市（※補記）、県、横須賀、あるいは横浜といった、要するに5事業者4事業主の人たちが、これからどう効率的に、持続可能な、かつ環境に優しい水を取水から最後の上水まで届けていくのかというのは、これからも大きな課題だとは思っていますし、この連携による会議というのはずっと続けてきましたので、その中でしっかりやっていくことは大事だと思っています。

それから、御指摘のような鉛管ですとか耐震管だとかというものにつきましては、これも川崎のほうは、大分、他の自治体に比べては計画的に進んでいるほうだとは思っていますが、ただ、まだ課題は残っていますし、災害に強いというか、いざというときのためには、開設不要型の給水拠点というのを整備してきていますので、そういったことにも一段と力を入れていかなくちゃいけないと思っています。

こういった課題はありますが、しっかりと事業が継続できるように、あるいは工業用水の課題とかというのも、産業自体が変わっていく中で、課題としては認識していますので、課題は多い中ではありますけれども、これからも持続的な水道ができるように取り組んでまいりたいと思っています。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。

《川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例について》

【NHK（幹事社）】 NHKです。

ちょっと話題提供と別件で申し訳ないんですが、来月、差別のない人権尊重のまちづくり条例の全面施行から1年ということになります。この1年振り返って、条例制定後の効果ですとか課題について、御所感をお聞かせください。

【市長】 そういう意味では、条例制定によって、明らかにこれはヘイトスピーチに当たると、条例に抵触するようなものというのはなくなっていくとは思っていますが、一方で、それに至らなかったとしても、そういった触れる可能性があるというような事象みたいな懸念というのが全て消えたわけではありませんので、そういった意味で

は、これからも適切に条例を運用していくということが大事だと思っておりますし、何よりも不当な差別を生まない、そういった土壌づくりというのは、引き続いてしっかりやっていきたくて、改めて決意をしているところです。

【NHK（幹事社）】 ありがとうございます。

先々週の日曜日に、また予告街宣というのがありまして、ちょっと現状を見ていると、街宣をする側も条例に違反していないだろうということを強く言っていて、見方によっては開き直っているようにも見れて、それに対して、カウンターと呼ばれる方たちが、さらに怒ってというような状況で、よりお互い過激化しているというか、そういった印象も個人的には持ったんですが、そういった状況についての受け止めと、何か今後取り組んでいきたいというようなところが、もしあれば、お願いできますか。

【市長】 個別の言動のことについて、あれがいい悪いというのは差し控えたいとは思いますが、しかし、デモをしている側も、いわゆるカウンターと言われる側も、双方に節度が求められると思っています。

正直、あそこの前を通る市民の皆さんからすると、一体何の騒ぎだという話で、結局、何言っているかも聞こえず、ただ何かに反対していて、それにさらに反対する人たちが、ガーガーやっているというのは、はっきり言って普通の市民から見れば、ただの迷惑でしかないと思います。

正直言って、主張されている団体の言動の一部は私も聞いていますが、それが条例に抵触する、あるいはそういった発言をしていないと思っているところでも、いわゆるカウンターと言われる人たちのところで、もう発言自体、封じ込めてしまうということというのは、ある意味、民主主義にとっての表現の自由というものを守っていく上では、どちらにとっても脅威だと言わざるを得ないと思います。ですから、この国で、ちゃんとした表現の自由と民主主義というものを守っていくためには、それぞれの主張というのを発言する自由もあるけれども、その節度というのが当然求められると思っています。そういう意味では、両方、どっちがどっちという話ではありませんけれども、市民から見れば、はっきり言って迷惑な状況が続いていると言わざるを得ないと思います。これはもう本当に条例云々の話以前の問題だと思います。

《新型コロナウイルスワクチンについて》

【NHK（幹事社）】 ありがとうございます。

ちょっと別件で、もう一点だけごめんなさい。

おととい、ワクチン6,300以上ですか、廃棄になってしまったということで、今後の対応策として、冷凍冷蔵庫ですね。冷蔵庫を監視する体制をつくっていくという

ことで発表がありましたけれども、何か具体的に、今後取り組んでいかれる内容とか、今、検討していらっしゃるかどうかあれば、教えていただけますか。

【市長】 まず、会見では初めてになりますので、これほどの大量のワクチンが無駄になってしまったということに対して、率直に市民の皆様におわびを申し上げたいと思います。

それと、今回の事案というのが、最終的な原因究明というのがなされなければなりませんけれども、その冷蔵庫を作っているところがリコールを出しているということですから、私たちも壊れることを前提に体制取っていませんので、そういった意味では、そういう。これは臆測の域を出ないので、正確に調査結果を待ちたいと思うんですけれども、そういった事案がメーカー側が把握したのであれば、速やかに、その納品先というのに丁寧に説明に、速やかに情報提供なされるべきですし、そうでなければ、こういった事故というのを防げないと思いますので、そういったところは、今回でもメーカーにもしっかりと伝えていきたいとは思っています。

とって、私たちが全て非がなかったかということ、そうではなくて、管理する側においても、もう少し早めに対応して気づいていれば、これはある意味、仮定ですけれども、何時に発見するかということにもよりますけれども、もう少し早めに気づいていれば、少し被害を抑えられたのではないかなということ、仮定の話としてはあります。そういった意味では、より、12時間というか、1日に2回ぐらい見回ること、チェックすることができれば、ある程度のロスは防げると、万が一にも備えることができるという意味で、1日2回の点検というものは、しっかりやりたいと思っています。

【NHK（幹事社）】 ありがとうございます。

幹事社から以上です。各社さん、お願い……。

【読売（幹事社）】 私、もうちょっとだけ。

今の関連で、実際、アラームが鳴ったりという仕組みがあるわけですが、気づいたときに、もし人がいるとして、それを救済できるような体制に今なっているかどうか。冷凍庫の横にいないとできない話であろうですし、それから、5月にちょっと、やや状況違うんですが、やっぱりワクチンが1回無駄になった事例があると。そういう中で、自治体として、何か実効ある再発防止策というのを、どの程度、お考えなんでしょうか。

【市長】 再発防止というか、これってどこまで行っても常に壊れるんだということ、でやっていくのであれば、それこそ極端な言い方ですが、倍のという話、冷蔵

庫用意しなくちゃいけないのか、ある程度というのを用意しなくちゃいけないのかという話になるので、そこについては少し関係者などとも相談したいと思っています。

一方で、設備をわざわざ導入しなくてもロスしないような状況に持っていくということは、1つは管理体制というのを、より短期間で、もしアラームが鳴ったとしても対応が可能なようにしておくということが、設備に頼らない、いわゆるソフト対策ができると思いますので、そこは今申し上げたようなことでやっていきたいと思っています。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。

各社、いかがでしょうか。

【東京】 すいません。東京新聞です。

今のワクチンの話に関連して、メーカー側に問合せをすると、確かに小まめに温度管理をすると、ある程度、温度上昇が上がらない段階で、冷蔵保存の規定に沿ってワクチンを打つこともできると、あるいはメールなどで知らせるシステムもあったということで、停電対応なんかも含めて、確かにいろいろできることはあったのかなという感じはするんですけども、そうした部分含めて、ただ、一方で不具合があった可能性もあるというところで、一定、今回ちょっと被害が出ているということで、そういった被害額とかですね、あるいは、ちょっと責任の所在を、行政とメーカー両方なのかもしれないんですけども、とかというの、これからどういう形で算定し、あるいは求めていくというようなことになるのか、考え方をお聞かせ願えますでしょうか。

【市長】 1つは、メーカー側が今調査をしているということですので、原因を調査しているということですので、まず、そこを待ちたいと思います。それから責任の所在というのが、それを見て明らかになってくると思いますので、そこはそこで明らかになった段階で確認をしたいと思います。

はい。

【東京】 ちなみに、被害額とかって、どのくらいというふうに、今回の場合ですと、見ていらっしゃいますか。

【市長】 額というと、その、いわゆる。

【東京】 そうですね。ワクチンに対してですね。数に対して。

【市長】 ワクチン代という話ということになると、いわゆる公的単価掛ける何という話が果たして正しい被害額なのかというのは、少し算定は、いろいろ見方があると思いますので、ちょっと確認させていただきたいと思いますが。

《川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例について》

【東京】 分かりました。

それとあと、先ほどのヘイトのまちづくり条例の関係なんですけれども、なかなかちょっと難しい状況だなというふうに思っていて、もともと、そういういわゆるカウンターと言われる方たちが体を張ってヘイトスピーチを止めてきたという経緯もある中で、条例が実現をして、それで今、街宣がなお続いているという状況が駅前ではあるかと思うんですけれども、そういう中で、では、この状況というのを止めるといふか、決して今の市民の方たちにとっても、あるいはこれまで差別を受けてこられたマイノリティーの市民の方たちにとっても、今の状況というのは決してよい状況ではないという中で、先ほど言われたような市長のメッセージというの、1つ、そういう節度のある対応というところで、呼びかけることも市のできることの1つなのかなと思うんですけれども。現状、こういうちょっと混沌とした状況が生まれていることというのが、この条例から1年たっても続いているという中で、行政としてできることがあるとすると、どういうことがあるのかなという、感じていらっしゃるか、伺えますでしょうか。

【市長】 行政としてできること。うーん。その質問の、御質問いただいているところというのは、何をちょっと求められているのかというのはあれですけれども、少なくとも私が先ほど申し上げているのは、この条例というのを適切に運用していくということが大事だと思って、これは繰り返し言っているとおりです。そして、この条例の意味、含意というのは何かということをお広く市民の皆さんにお伝えしていくこと。

一方で、路上で双方のところに対しては、先日の議会でも申し上げましたけれども、正直、両方に節度ある行動が求められていると。今日も言っている話ですが。ということをお理解いただかないと、正直、先ほどから申し上げているとおり、一般市民からすると、本当に迷惑としか思えませんので、そのことは強く言いたいと思っています。

【読売】 読売です。

すいません。今の関連で、じゃあ、双方に何か文書を出されたりとか、何か呼んで話したりというお考えもあるのでしょうか。

【市長】 いや、正直、これ条例に基づく行為なのかといったらそうではありませんし、まさに道路使用許可の問題だとか、要するに、例えば、街宣するという形で、公道で何かをすることかという話というの、ある意味、ルールに基づいてやればできることですから、そのことについて、この発言がいいとか悪いとかという話というのは、

私はそんなこと言ったら大変なことになると思うんですね。そこの主張がいいとか悪いとかって私が決めるということではない。ある意味、条例にのっとった運用をするということは大事ですけども、この発言がいいとか悪いとかというのが、市長という立場の人間がやるというのは、まさに表現の自由への挑戦だということになりますし、本当に憲法だとか法律だとかに抵触するものだと思っていますので、その辺りは慎重にならなくちゃいけないと思います。

【読売】　じゃあ、節度は双方に求めたいけれども、直接言ったりはできない。

【市長】　要は、私の持ち得ている権限の中で、それを行使するということはないということです。呼びかけはさせていただきたいと思えますけれども、双方が節度あるというのは市民の求めている声だし、ということは、こういった場を通じて発信をしていきたいと思えますが。

【読売】　分かりました。ありがとうございます。

【市長】　あくまでもそういう、いわゆるこういった状況というのは普通じゃないということを、ちゃんと伝えていくということが大事だと思います。

【読売】　ありがとうございます。

《新型コロナウイルスワクチンについて》

【朝日】　すいません。朝日新聞ですけども。

先ほどのワクチンの話で、リコールということメーカーが言っているけれども、それを速やかに伝えてもらえていないという認識ですか。

【市長】　速やかにというか、適切に伝えられていないとは思っています。正直、私も確認したんですが、どこに電話かけてきたのということは、説明はこちらに頂いていないということです。報道機関にはしゃべったのかもしれませんが、どどこに電話かけて、いつ、どういうふうにかかってきたのかというのは、私たちとしては認知していないということですから、そういった意味では、どこかで以前に事象が出ているのだとすれば、速やかにそのような説明があってしかなるべきなのではないかなと。これだけ国民の重大なところを担っている事業者が、不備があると、もし感じていたのであればですね。これは仮定の話ですけども、それはいかなる方法であっても連絡を取るべきだし、というのは製造者の責任というのはあるのではないかとと思っています。

ただ、繰り返しになりますけれども、この事案が全てメーカー側の不備だということではないというのは、私たちの管理上の問題というのものもあるのではないかとと思っています。

【朝日】 市の認識で、メーカーがリコールというか、そういう不具合を認めているのがいつで、市はそれを知ったのはいつだというのはありますか。

【市長】 13日の、受けて、私も第一報を受けたのが午前中でありましたけれども、そこから原因究明という話で始めました。そのリコールの話を市の職員がホームページで発見したという時間と、現場にそのメーカー側の社長さんが来られたというので、そういう話があるんだということを聞いたのが、ほぼ同時だったようです。なので、ほぼ同時だと聞いています。それは13日の夕方ということになります。

【朝日】 ホームページには、もっと早い時間に上がっていたんですか。

【市長】 らしいです。前日だったかな。前日です。に上がっていたそうです。それはメーカーの話ということです。

【朝日】 ところが、その瞬間には連絡がなくて、社長が直接現場に説明に来るまで何ら連絡がなかったんで気がつかなかった。

【市長】 というのが私たちの認識ですけれども、ただ、あちら側が土曜日には電話をしましたよということは報道ベースでは知っているのと。

【朝日】 分かりました。

【市長】 はい。

【朝日】 それと、そのワクチンは、これは基本的には国が。

【市長】 ちょっと待ってください。報道ベースで知っているということでもいいですか。担当者から、ちょっと補足でよろしいでしょうか。

【朝日】 はい。

【健康福祉局】 所管でございます。

先方の会社の方から、その日に連絡をしたという事実につきましては、報道の方からのお問合せの中で知ったという状況でございます。

以上でございます。

【朝日】 それから、ワクチンの費用というのは基本的には国が持つということかと思うんですが、このようなこと、責任がどこにあるかという中で、廃棄するものとか、こういったものを誰が最終的に負担するか決まっているんでしょうか。

【市長】 すいません。事務方からでもよろしいでしょうか。

【朝日】 はい。

【健康福祉局】 そこにつきましては、国のほうに確認をしてみたいと思っております。

【朝日】 現時点では分からないということですか。

【健康福祉局】 はい。それについては把握を正確にはしておりません。

【朝日】 ありがとうございます。

《東京オリンピック・パラリンピック学校連携観戦について》

【読売（幹事社）】 じゃあ、すいません。読売です。

オリンピック関係ですが、小・中・高校生の観戦の話が、最近、報道がいろいろありまして、聞くところだと、川崎の場合は、部活単位で、何か少人数が、今、数百人ぐらい参加の御希望があるというふうに聞いたんですけれども。

【市長】 ごめんなさい。それは何にですか。

【読売（幹事社）】 オリンピックの試合の観戦です。

【市長】 はいはい。

【読売（幹事社）】 現時点での、たしか、私、聞いた限りだと、小学校は入っていないくて、中・高で何百人かが、今、希望されていると。現時点で市内のお子さんの五輪観戦について、何か市長のお考えがあれば、伺いたいと思います。

【市長】 そもそも、私どもの観戦チケットの数というのは少なくても、もともと430人の観戦予定だったんですけど、そのうちの190件はキャンセルをされているという。

ちょっとごめんなさい。数字が正確なのがございます。

すいません。そうですね。420枚の申込みが受けていたんですが、6月14日時点で190枚のキャンセルが出ているということでございまして、ですから残り230人という形になります。

そもそも感染防止対策という、ふだんはしっかり行った上でという大前提になりますので、そこはしっかりとやっていくということでありまして、今後、その大会組織委員会の感染の取組というのと同時に、本市としての取組というのをしっかりやった上で、観戦する場合には、十分それには気をつけたいと思っています。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。

《緊急事態宣言解除後の対応について》

【朝日】 すいません、もう一点、朝日新聞ですけれども。

神奈川県内、川崎なんか、まん延防止等重点措置で、東京都、緊急事態宣言で、それを延長するのかどうかというような議論というのが、今週、行われることになっていきますけれども、感染状況を見たときに、今、特にかなり厳しい飲食店に対しては規制がかかっていますが、これをどのようにしたらいいというか、現場を見ていて、どのように思われているかというのをお聞かせください。

【市長】 感染状況と経済のところ、これずっと、そのバランスの問題だということをお願いしてきましたけれども、実際、もう飲食店は、規模によって多少違いはありますけれども、悲鳴上がっている状態で、もはやお酒を出すしか方法がないとおっしゃっているという事実も知っています。そういった意味では、本当にメインのところのお酒をどうするかといったところが、今回の争点になるのではないかなと思っていますが。

ちょっと気になっているのが、東京がどう判断するかということに、実は私たちはものすごく影響を受けてしまうので、東京……。すごい仮の話ですけども、万が一……。あんまり仮定の話を言っちゃいけないですね。けど、東京が酒なしと言ったときに、神奈川県側が酒ありというふうな話になってくると、ゴールデンウィークのときと同じような話になってしまって、それは大変なことになるなというのは感じています。

ただ、正直、どこに正解があるのかというのは本当に難しいところですけど、ゴールデンウィーク明けから人の流れというのが抑制できていないというのはデータ見れば明らかで、川崎市内においてもそれはそうです。これだけ感染状況がということをお願いしていますが、もう抑え切れないというのは、数字が、ある意味、示しているとおりでと思うので、ここからさらに激しくと言っても、実態はなかなか伴いにくいのではないかなというのは正直思います。ですから、そういった意味では、月並みになるかもしれませんが、とにかくワクチン接種をしっかりとやっていくということと、基本的な感染対策というのも忠実にやっていただくという呼びかけということと、それから、私たちにできることというのは、医療提供体制というのをしっかりと確保することということで、ある意味、乗り切っていくしかないという、その3つの組み合わせをやるしかないんだと、本当にぎりぎりの状況だと思っています。

【朝日】 ということは、飲食店の酒の提供禁止というのは。禁止というか停止か。停止要請というのは、もう意味を失っているというふうにお考えですか。

【市長】 いや、というか、お酒が出せなかった。で、ここまで夜が開けなかったことによって、正直、これまでで抑え込めてきている。変異ウイルスがある中でも、ある程度抑え込めていて、首都圏でも抑え込めているんだというふうには思います。

一方で、高止まって、これ以上なかなか下がらないという、川崎市内においては、感染状況もですね。というのは、一定程度の人流というのは常にあり続けるということというのが、その要因だと考えるのが普通だと思うので、そういう意味では、飲食、お酒を開ければ、ある程度確実に増えるんだろうと思いますが、その上がり方をどこ

まで抑制できるかというのの勝負なんじゃないかと思わざるを得ないというか。ですから、ある意味、そういうルールというか、開けるけど、どういう条件で開けるのか、あるいは店舗の形態にもよりますけれども、どういう形だというのを推奨していただきという、なるべく感染防止の取組というのをちゃんとやったところというのに、店側にもお客さん側にも求めるということしかないのではないかと私は思っています。ですから、飲食、お酒抜きという、これまでの対策というのは一定の効果はあったと私は思っています。

【朝日】 あったけど、今後は今おっしゃったように開ける方向で対策を取っていくという感じですか。

【市長】 私にその権限があるわけではないので、何とも申し上げにくいんですが、解除すると……。

【朝日】 開けたとしても、解除したとしてもという話ですか。

【市長】 解除したとしてもということですね。

【朝日】 分かりました。

【市長】 はい。

【NHK（幹事社）】 ほか、いかがでしょうか。

【t v k】 すいません。テレビ神奈川です。

今の質問に関連してなんですが、非常に川崎市の立地上、東京と隣り合わせ、横浜も隣り合わせというところで、東京の判断、それからまん延防止については県知事の判断というところで、酒のあるないというのも決まってくるということなんですが、例えば、じゃあ、東京で酒なし、神奈川も、じゃあ、酒なしにしますよということになったときに、市長が市長としての意見を伝えていくということも出てくるかと思うんですが、その辺、川崎として、こうしたい、ああしたいという思いを、どういうふうに伝えていきたい、伝えていったらいいんだろうというところの思いはいかがですか。

【市長】 それは飲食だけでなく、やはり卸だとか、そういったところも本当に厳しい状況というのは続いていくので、そういった意味では、これまで以上の協力金というかですね、というものは考えるべきなんではないかと、もし、それが続くとすればですね。仮にそういったことが続くとすれば、もうもはや、ちょっとこれ、これ以上の長きにわたってというのは、事業者としては、もう倒産しても致し方なしということのメッセージに聞こえてしまうと思うんですよね。そういった意味では、しっかりとした、お願いするのであれば、措置をするということが、ある意味、当然だと思

いますので、その措置というものは、市としても求めていきたいと。もし、仮にそういうことになるとすればですね。全て仮定の話ですが、もし、そうなったのであれば、さらに協力、支援ということは求めていきたいとは思っています。

【t v k】 ありがとうございます。

【司会】 いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして会見を終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)0312